

12歳の
ための

小説すらすら講座

第4回

あらすじをつくろう!

小学五年生まで
大活躍中の
文具天国
のメンバーだ!



ケシゴムくん



えんぴつくん(HB)



万年筆先生

本講座の
登場人物

小説がす～らすら書けちゃう?!

この講座を参考にして、「12歳の文学賞」に作品を応募しよう!

監修/奈良裕明(作家)

89年「チンドン・ジャン」にて第13回すばる文学賞受賞。96年より「松涛スクール/文章の学校」に講師として参加。また、自治体主催の文章教室で、11歳から82歳まで指導した実績を持つ。著書に「小説を書くための基礎メソッド」(雷鳥社刊)など。

「桃太郎」を例に
説明しよう!

今回はあらすじをつくる
ていくよ。あらすじと
はその名のとおり、物
語の「だいたいの筋」。
これは小説を書くう
えで大切だ。

あらすじづくりに必要な【起承転結】とは!?

転

犬、キジ、猿を家来にし、
鬼の住む島へ乗り込む。

【物語をふくらませる】

結

無事、鬼を退治。
村に平和が訪れる。

【結果・一番書きたかったこと】

起

川に流れてきた大きな桃を
老夫婦が拾う。

【物語の発端・事件が起きる】

承

桃から生まれた桃太郎が
鬼退治に出かける。

【物語を進める】

このように起承転結にそって、あらすじをつくってみよう!

※2000字程度の小説
を想定したあらすじ

起

事故で両親を亡くした五
郎と幼い弟・拓。五郎は親
代わりの頼りになる兄だが、
なぜか明日の運動会は見
に行けないと弟に告げる。
拓はすっかりすねてしまう。

承

じつは五郎は拓だけに見える
ゴースト。両親と一緒に事故で
亡くなっていたのだ。叔父夫婦
宅から、かつて住んでいた家
にちよくちよくやって来る弟を心
配し、そのたび現れるのだった。

起

平凡な大学生の和男。ある
日、高校のクラスメート・純子
から「長谷川君を殺したのは
あなたでしょ?」と突然電話が
かかってくる。しかし、和男に
はまったく身に覚えがない。

承

和男は新聞やニュースを見
るが、長谷川についての記
事や報道はない。真相を知
りたい和男が純子に連絡
をとると「すべてを話す」と、
ひかり公園に呼び出される。

ぼくは大好きな
ミステリーでいくよ!

ここで読お人き
さらに驚かせたいな!

ふたりとも
「起承」をふまえた、
なかなかいい
すべり出した。

ちなみに「12歳の文学賞」の規定最少枚数「400字詰め原稿用紙で5枚」は、起承転結を過不足なく書ける最小の単位。どんな長い小説も、この「5枚のかたまり」の積み重ねでできているということ覚えておこう!

例:短編小説は原稿用紙20枚くらい。よって、1つの作品に4この起承転結が積み重なっている。

今回も
第五郎を主人公
に書くぞ!

兄弟の物語だけど、
実はSFなんだ。

万年筆先生のプチプチメモ